

日本原子力学会核燃料部会 平成19年度第四回運営委員会議事録(案)

日時 : 平成19年12月4日 13:30~15:40

場所 : 日本原子力学会 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、阿部委員、伊東委員、今村委員、大平委員、緒方委員、木下委員、高島委員、原田委員、三島委員、山本委員、和田委員、佐藤先生(塩川委員代理)、中島氏(松浦委員代理)、永瀬氏(更田委員代理)

議事

1. 前回運営委員会及び総会の議事録案確認

今村委員から、資料No.1に基づき前回運営委員会および総会の議事録案が提示され、了承された。

2. 運営委員の変更について

今村委員から、資料No.2に基づき、運営委員1名の変更について紹介があり、了承された。

3. 2008年「春の年会」企画セッションについて

東北大学佐藤先生から、資料No.3に基づき2008年春の年会企画セッションの提案状況について報告があった。大会企画セッションは「先進的原子力エネルギーシステムにおける燃料リサイクル」を主題として、3部会(核燃料、材料、核融合)合同で、日時は未定であるが280分にわたり開催される計画となっている。核燃料関連では、JNES上村氏、韓国Park氏、JAEA滑川氏から3件の発表を予定している。

・学会との企画書手続きの間に、先に韓国側の講師が決まり、日本側は韓国側に対応した内容になっている。

・JNES上村氏のテーマ(燃料の高燃焼度化とリサイクル)は、主体者である電力、JNFLから講師を出した方が良く、規制側からというのはポジションが違う、といった意見があった。

・佐藤先生から、再処理部会で他部会と合同セッションはどうかという意見も出ており、来年初の大会以降で検討しているという紹介があった。

・岩田部会長から、他の部会との交流の場を作り互恵関係を持つのが良く、最初から長時間にわたり全部聞いた人が「聞いて良かった」と思えるようにしてほしい、とのコメントがなされた。

4. 平成20年度夏期セミナー準備状況

JAEA・永瀬氏から、資料No.4に基づき、平成20年度夏期セミナーの準備状況について紹介があった。プログラム、テーマの検討を進めており、トピックスは米国の新型炉で、講師数人について内諾を得ているとのことであった。

・新型炉について米国だけでなく、日本の技術もあった方が良くとの意見があったが、幹事として発表内容にはタイトルにこだわりすぎないように依頼することを考えているとのことであった。

・前のセミナーのアンケートで、若い人が核燃料を分かっていないというアンケートがあった。これには大学で教えていないという原因もある。セミナーの場で若い人に発表させてはどうか、何かこれまでと違ったことはできないか、という意見があった。

・永瀬氏から、今まで講師から一方的に話すことが多かったが、会場から意見を出させるような逆向きの場を作りたいとの考えが示された。

・地元講演については、観光案内にならないようにとの意見があった。

・瀬戸内海直島に三菱マテリアルの精錬炉や、ベネッセの施設等があり、見学場所、講師の人選においても、候補として良いのではないかと意見が出され、幹事機関、地元の四国電力で検討することとした。

5. 次回部会報(No. 43-2)の企画立案状況報告

高島委員から資料No.5に基づき、部会報冬版の編集状況の説明があった。10月に執筆依頼状を送り、既に幾つか原稿を頂いていることについて謝辞があった。既に目安としていた57頁に達しており、関係機関便り、ニュースは割愛することとなった。

6. 平成20年度予算案について

今村委員から、資料No.6に基づいて、平成19年度見通しと平成20年度予算案を学会事務局に提出するよう依頼が来ていることについて説明があった。12月17日締め切りであり、12月10日までに委員からの意見を集約し、メールベースで運営委員会にお諮りのうえ、提出することとなった。

・100万円以上が次年度に繰り越しになる見通しであり、有効に活用することについて意見が出された。岩田部会長から、別途予算計上を考えている構想に対して、部会でもコミットできるよう、予算に反映したいとの発言があった。

7. 核燃料部会員構成について

今村委員から、資料No.7に基づき、HP担当頂いている林氏が整理した部会員年齢構成について説明があった。高齢化が進んでいる状況が読みとれる。

- ・学会入会を強制するわけにもいかず、個人情報にも係るので難しい問題との意見があった。
- ・エンジニアが学会誌を読まないという風潮がある。セミナーの活用等、積極的にすべきとの意見があった。
- ・岩田部会長から、世界的にも若い人が離れており、IAEAのKnowledge Managementの会議でも年齢構成について議論した、との話があった。すぐにきちんとアクションをとらないと後継者がいなくなる。核燃料分野は他の学会ではケアしてくれない。若い人にとってのメリットは何かを考えるべき、と意見を示された。

8. AESJ-KNS合同セミナー報告

安部田副部会長から、資料No.8に基づき、10月24日韓国で開催された日韓合同セミナーの報告があった。日本側の出席者は松井氏(JMTR利用施設長)、安部田副部会長の2名で、講演は韓国側4件、日本側2件であった。安部田副部会長はOpening addressを行った。

9. 第1回新規受託事業推進タスクグループ打合せについて

安部田副部会長から、資料No.9に基づき、学会が立ち上げた題記タスクグループの、11月6日に開かれた第1回会合についての報告があった。学会として受託を増加させることが趣旨であり、12月末までに各部会からアイデアを募っている。

- ・各部会主体での活動で余剰金が出た場合に学会に納める方法、経理上の扱い等について、意見が出された。

10. その他

・永瀬氏より、資料10-1, 2に基づき、来年10月に青森で開催される16th PBNCへの講演申し込み状況について説明があった。

・木下委員より、資料No.10-3に基づき、国際関係報告があった。来年10月19~22日に韓国で開かれる2008年WRFPMにおいては、日本側からCo-Chair, Technical Committeeに各1名の推薦, Program Committee構成メンバーの更新が必要となっている。本件は木下委員と更田委員が窓口である。部会長他から、このような国際会議に若い人が参加して積極的に発言するようにならないか、若手の勧誘の場に行かないかといった意見が出された。なお、中国、インドからの出席は不透明とのことである。

さらに、本年12月13~14日のMMSNF-6ワークショップの紹介があった。核燃料部会の協力として円滑に進めることとしている。フランスの参加者が多いとのことである。

・安部田副部会長から、10月にSan Franciscoにて開催されたANS Fuel Performance Meetingの際、KAERIからアジア地域のジルコニウム会議を設けたい旨の提案があったことが紹介された。部会活動としては良い話であり、どういことができるか、KAERIと調整することにした。中国、インド、台湾を入れるかを含めて枠組みについて議論し、現行3部会の下にスペシャルで入れる案や、ジルコニウムに関連するテーマに絞ること、再処理も含めてはどうか、基本的に学会であるからオープンにすべきといった意見が出された。

・12月現在の運営委員会名簿が配布され、確認することとした。

・岩田部会長から、国際的に通用する核燃料のテキスト作成を構想していることについて考えが述べられた。「若い人を含めて幅広い層に核燃料分野が魅力的に見えるテキスト」を目指すこととし、専門家向きでなく、科学、工学の原点に戻って、科学を志す若者の琴線にふれるものにした。榎本氏との話の中で、「現場からのサイエンス」という視点が示されており、「若手」「現場」をキーワードにして、世界に通用するテキスト作りをする。核燃料部会で計画立案、検討、協力を進めたいとしている。

・次回運営委員会は、「春の年会」の企画セッション、総会の日で開催することし、年会日程が決まれば庶務担当から連絡することとなった(於:大阪大学)。

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)